

(1) 実施機関名：

東京大学史料編纂所

(2) 研究課題（または観測項目）名：

近代以前の地震・火山災害に関する多角的研究

(3) 関連の深い建議の項目：

4 地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究

(1) 地震・火山噴火の災害事例による災害発生機構の解明

(4) その他関連する建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

(1) 地震・火山現象に関する史料・考古データ、地質データ等の収集と解析

ア. 史料の収集とデータベース化

(2) 低頻度大規模地震・火山噴火現象の解明

地震

火山

4 地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究

(2) 地震・火山噴火災害に関する社会の共通理解醸成のための研究

5 計画を推進するための体制の整備

(3) 研究基盤の開発・整備

エ. 地震・火山現象のデータベースの構築と利活用・公開

(4) 関連研究分野との連携強化

(5) 総合的研究との関連：

(6) 平成30年度までの関連する研究成果（または観測実績）の概要：

江戸時代の被害地震における日光東照宮での地震対応について検討した。当時の江戸幕府にとって宗教上の重要施設であった日光東照宮は、元禄十六年（1703年）の元禄関東地震とその152年後の安政二年（1855年）の安政江戸地震に遭遇しているが、被害程度は双方ともに軽微であった。日光東照宮に関する震災対応について、元禄関東地震の際には、江戸から地震見舞いの使者が日光東照宮へ派遣されていたが、安政江戸地震の際には使者の派遣はなかった。双方に共通する地震対応としては、江戸の幕府からの命令によって実施された天下安穩の祈祷が挙げられる。

また、安政江戸地震後における江戸での人々の避難状況や、罹災民に対する幕府の救済の有り様などについて、文献史料や絵画史料に基づいて検討した。これによって、地震直後における人々の避難方法と避難場所、罹災民に対する幕府（町奉行）の施策、余震の発生状況や気象条件に起因する避難状況の変化などについて解明できた。

(7) 本課題の5か年の到達目標：

本研究課題では、現代とは異なる社会状況の下で発生した災害時における人々の行動や対応、復旧・復興過程などの事例を集積し、時代的・地域的な特性を導き出して、今後の防災・減災施策、復興施策などの検討に資する事例の提示を目指している。

(8) 本課題の5か年計画の概要：

[平成31・32・33・34年度]

現存する膨大な史料の中から、近代以前の地震・火山災害に関連する新たな史料を調査・収集・翻刻する。既存の史料に新たな史料を加えて、近代以前に発生した地震・火山災害などについて、当時の人々の行動や対応、復旧・復興過程などについて検討し、災害事例を集積する。

[平成35年度]

近代以前の地震・火山災害に関連する新たな史料を調査・収集・翻刻する。近代以前に発生した地震・火山災害などについて、当時の人々の行動や対応、復旧・復興過程などについて検討し、災害事例を集積する。このような検討に基づいて、自然災害における地震・火山災害の特徴を解明し、今後の防災・減災施策、復興施策などの検討に資する事例の提示を目指す。

なお最終年度には、部会全体としての研修プログラム構築に際して、近代以前の地震・火山災害への対応の事例に基づいた知見を提供する予定である。

(9) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

杉森玲子・及川 亘・荒木裕行・林 晃弘・山田太造

他機関との共同研究の有無：有

東京大学地震火山史料連携研究機構 大邑潤三

(10) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等：

電話：

e-mail：

URL：

(11) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：杉森玲子

所属：東京大学史料編纂所